



2023年度 プロジェクト科目紹介

2023年9月版



関東学院大学 人間共生学部 共生デザイン学科 コミュニケーション学科

人間共生学部では、3年生の春学期に学生全員が「プロジェクト科目」と呼ばれる活動を行います。

これは、学生たちが大学内にとどまらず、実際に外に出て、社会の中での様々な課題を見付け出し、その解決法を考えていくという学習のかたちです。 画期的な試みとして、3年生の春学期は、このプロジェクト科目に集中して取り組めるようなカリキュラムになっています。これによって長期滞在などを伴うプロジェクトも可能になっています。

このプロジェクト科目で得た経験を、3年生秋からの本格的なゼミナール、さらには卒業研究、そしてその先の就職活動に活かしていくことになります。 人間共生学部では、コミュニケーション・プロジェクトと、デザイン・ プロジェクトの中から1科目以上を選んで取り組んで行きます。

科目名	担当者	テーマ	ページ	
デザイン・プロジェクト1	神野 由紀	Chigasaki Organic Farmにおける食文化のデザイン・ プロジェクト	1	1
デザイン・プロジェクト12	二宮 咲子	自然と共に生きる暮らしのデザイン・プロジェクト	2]
デザイン・プロジェクト3	立山 徳子	地方・田舎の空き物件再生と新しいライフスタイルの 実践について	3	
デザイン・プロジェクト6	佐野 慶一郎	環境学に基づく海外交流の実習	4	•
デザイン・プロジェクト5	山﨑 稔惠	ファッションショーで魅せる横浜スカーフ	5	☆
デザイン・プロジェクト10	海老根 秀之	プロモーションビデオ制作	6	1
デザイン・プロジェクト8	佐々 牧雄	SF思考ワークショップ通して手法自体を改善する	7	1
デザイン・プロジェクト13	淡野 哲	「ストップモーション・アニメ制作」 コマ撮り映像制作に必要な造形・撮影技術を学ぶ	8	
デザイン・プロジェクト9	兼子 朋也	空き家再生プロジェクトの実践(横須賀・三浦地域)	9]
デザイン・プロジェクト11	日髙 仁	「コミュニティDIY」による「キャンパスリノベーション」	10	1
デザイン・プロジェクト15	兼子 朋也	「空き家の再生・活用プロジェクト」の現地調査	11	1
デザイン・プロジェクト16	日髙 仁	夏休みのワークショップ「サイクルツーリズムのための 拠点施設を考える」	12	1
デザイン・プロジェクト14	小林 和彦	広告のデザイン	13]
コミュニケーション・プロジェクト1	新井 信一	中長期のインターンシップ	14	•
コミュニケーション・プロジェクト2 & 3	松下 倫子	「学生が受けたい授業の企画」 と 「開講」	15]
コミュニケーション・プロジェクト5 & 6	黒﨑 真由美	英語圏の大学での語学研修プログラム(A)(B)	16]
コミュニケーション・プロジェクト7	山田 留里子	中国・北京大学での中国語研修	17	\mathbb{R}
コミュニケーション・プロジェクト8	施 桂栄	中国文化についての調査・体験(江蘇省・江南地域)	18]
コミュニケーション・プロジェクト9	松下 倫子	就業体験・業界研究(神奈川県情報サービス産業協会)	19]
コミュニケーション・プロジェクト10	石井 充	日本の伝統文化を体験的に学ぶ	20	
コミュニケーション・プロジェクト11	Jason Moser	Learning to Master Popular Visual Technology	21	
コミュニケーション・プロジェクト12	折田 明子	インターネットを活用した情報発信・広報の計画立案・実践	22	
コミュニケーション・プロジェクト13	佐野 予理子	自然の心理効果についての調査プロジェクト	23	
コミュニケーション・プロジェクト14	道幸 俊也	問題発見から課題解決〜知の実践〜	24	
コミュニケーション・プロジェクト16	山田 留里子	JICAにおける国際協力を学び、日本におけるチャイナタウンからSDGsを考えよう	25	
コミュニケーション・プロジェクト17	奥田 博子	記憶の場をめぐる諸問題について考える	26	1
コミュニケーション・プロジェクト18	大友 章司	応用心理学による災害リスクアセスメントの体験と ソリューションの提案	27	

^{◆ 2024}年度は担当教員がサバティカル研究で不在のため休講

2020年度~2023年度は新型コロナ感染症対策のため、内容を変更して行った科目がありますが、 記載内容が2019年度までの通常の内容になっている科目もあります。

₩ 関東学院大学

^{☆ 2023}年度で閉講

^{♠ 2024}年度より担当者変更

^{※ 2023}年度は休講



「Chigasaki Organic Farmにおける 食文化のデザイン・プロジェクト」

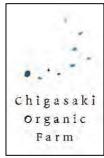
プロジェクト概要

現代の食の問題について、食文化に関わる知識を得た上で、現場の課題を発見して デザインによる解決策を提案するプロジェクトです。

茅ヶ崎の農園Chigasaki Organic Farmを、茅ヶ崎の風土とともに理解し、熊澤酒造での 野菜マルシェのデザイン提案をします。

1 事前調査・現地見学・販売実習 農園見学

販売実習



海と山、自然に恵まれた茅ヶ崎は食をはじめと する生活意識の高いエリアです。Chigasaki Organic Farmは、この茅ヶ崎で丁寧な有機農業 を実践している始めたばかりの農園です。 授業の前半では実際に現地の見学を行い、ま た野菜マルシェの販売も体験します。茅ヶ崎在 住のデザイナーにより、農園のブランドイメージ を視覚化したロゴマークも作られているので、事 前学習としてデザイナーからデザインワークの 農園ロゴマーク 経緯なども学びます。

2課題発見のためのワークショップ

Chigasaki Organic Farmで大切されていることは何 か、見学した内容をもとに全員でワークショップで 作成したイメージビジュアルを共有します。見学や 実習では今回は農園のロゴマークが野菜マルシェ で活かされていないことを見つけ、これを共通の解 決課題とします。そして提案をより具体的なものとす るため、短時間で手を動かして考えるラピッド・プロ トタイピングを実施します。



ワークショップ



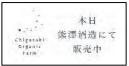
ラピッド・プロトタイピング

3 最終成果

班に分かれて試作と検討を繰り返し、最終的にこのような案が完成しました。

1班 車用ステッカー・マグネット





- ・駐車場で車を見かけたリピーター が、マルシェ開催を知る。
- ・走行中の車を見かけた人をマル シェに誘導。

2班 タペストリー



- ・視認効果の高い目線の位置に タペストリーを吊り下げる。
- ・ロゴマークとともに毎週日曜日 に販売していることを告知。
- ・丸めてコンパクトに運べる。

3班 販売台用テーブルクロス



・ロゴマークと ともに、有機野 菜であることを 人々に知って もらう。 汚れを考慮し てネイビーに白 抜き印刷。

4班 布看板



・ロゴマークと ともに、生産者 の声を印刷。 ・販売員が中に 立ってもよく見 えるレイアウト。

担当教員: 神野 由紀(じんの ゆき)



「自然と共に生きる暮らしのデザイン・プロジェクト」

プロジェクト概要

テーマ: 農園と食卓をつなぐデザイン(有機農園で収穫体験イベントを企画プロデュース) 神奈川県内の都市近郊農業の課題解決をおこないます。都市の自然共生を目的とした、新しい食文化や食を中心とするローカルビジネスをつくりだすモノ・コトをフィールドワークに基づき制作。茅ヶ崎市内の有機農園を対象地として収穫体験イベントを企画プロデュースします。

STEP1 事前学習 ·資料調査

神奈川県内の都市近郊農業の現状と 課題を解決するデザインの可能性に ついて、湘南・茅ヶ崎の食文化を具 体事例として学習します。

文献資料や各種統計データの調査 及び現地調査に基づくレポートを 作成します。

神奈川県の都市農業振興の意義

- 県民の健康で豊かな生活の確保を図る
- 都市農業を持続的に発展させる
- 神奈川県都市農業推進条例 (平成18年4月1日施行)
- ①新鮮で安全・安心な食料等の供給
- ②農業の有する多面的機能の発揮

農業の 多面的な機能

- 良好な景観の形成
- ・ 防災、県土の保全
- 水源のかん養
- 自然環境の保全
- ・文化の伝承
- 情操のかん養など
- 農業が適切に営まれることによって生じる 様々な機能
- ⇒都市化の進む中で日常的に発揮

STEP2 現場で実習

自然共生型の有機農業(農薬や化学 肥料を使用しない)を現場で学び、 播種や草取り・摘芯から収穫まで実 習し、野菜の美味しさや農園の自然 を体験します。

有機農園 (クライアント) のブランドイメージや現状・課題を聞き取り調査によって明らかにします。











STEP3 企画プロデュース:農園と食卓をつなぐ収穫体験イベントを開催

企画のポイント

- ①緑に囲まれた自然豊かな農園ならではの 収穫体験
- ②クラフトでは虫食いのため売ることができない 野菜や可食部ではない葉・蔓などを使用
- ③採れたての旬野菜の美味しさを皆で共有する アウトドア料理体験
- ④プロジェクトの成果を伝え広める作品制作・展示





担当教員:二宮 咲子(にのみや さきこ)



デザイン・プロジェクト 3

「地方・田舎の空き物件再生と 新しいライフスタイルの実践について」

プロジェクト概要

本プロジェクトでは地方・田舎に若年層が「住むこと」・「働くこと」・「育てること」・「地域に関わること」をどのように実践しているのか、またその実践に空き物件という物理的資源がどのように関わり、再生されてゆくのかを観察・調査しながら、空き物件と人との新しいライフスタイルを考えてゆく。履修者は①田舎暮らしをする若者へのインタビュー・データの読み込み、②千葉県いすみ市で空き物件の再生に取り組む地域事業者へのインタビュー(機会があれば、リノベーションへの参加)、③再生された物件の居住者への訪問やインタビュー調査を通じて、地方・田舎における空き物件の利活用と新しいライフスタイルの実践について、その可能性や課題解決(social design)をめざす。



プロジェクトチーム2022 による制作物







「sumi Never Land」は、現 です。 では、子どもが楽しめる空 物件は、子どもが楽しめる空 がれています。また、「古 いものに対して価値を感じ る」という考えから、瓦はリ ノベーションせず、そのまま の形で残していることもこの が件の特徴です。 物件の特徴です。

空き家を自らの手で再生し、 やりたい仕事へと発展させてい み市に住む人たちとの交流を大 切にしていたと話します。いす み市は住民と移住者が混合している地域であるため、多方面に と残る情報の共有が盛んであり、 渡る情報の共有が盛んであり、 で育まれる将来ビジョンの可能 性と言えるでしょう。







9



「環境学に基づく海外交流の実習」

プロジェクト概要

大学卒業後、社会人として活躍する中で、 海外との交流は、重要です。本プロジェクトでは海外交流の基本について、習得しました。 外国人(カナダ、中国、韓国)の講師を招聘 して、海外の文化やマナーを学び、且つ英語 によるコミュニケーション手法を習得しました。最終の体験学習として、各自、英語による研究課題(環境学)の報告会(プレゼンテーション)を学内、および、ドイツの TITK研究所で行い、意見交換を行いました。

なお、ドイツの研究所にて、学生達は最先端のリサイクル施設を見学することができました。学生達は、研究者の解説に熱心に耳を傾け、質疑応答が活発になされ、英語力とコミュケーション能力の成長が認められました。



ドイツTITK研究所でのプレゼンテーション



リサイクル施設の見学



叢 暁波(そうぎょうは)先生による中国文化の講義



クリストファー 先生によるカナダ文化の講義



ミュンヘンでの散策



「ファッションショーで魅せる横浜スカーフ」

プロジェクト概要

シルク博物館が毎年12月に開催するシルク文 化振興のためのイベント(シルキー・クリスマス)に参加します

横浜スカーフを用いたファッションショーの 企画から制作・演出、出演、会場の空間構成 や装飾まで行うことによって、横浜が世界に誇 る捺染技術への理解を深め、シルク文化の継 承と発展について考えることを目的と します

●事前準備

シルクや捺染技術に関する基礎知識とイベント 実施までのプロセスや方法を学びます







担当教員:山﨑 稔惠(やまざき としえ)

●2023年度のファッションショー コロナ禍のため本学金沢八景キャンパス内の室 の木校地と六浦校地で実施し、撮影、映像化

2つのユニットが協働し制作しました

衣装制作・出演デザイン・プロジェクト5撮影海老根ゼミナール映像編集デザイン・プロジェクト5

目指すテーマは「映える」横浜スカーフ キーワードは「逸脱」「多様性」

固定カメラで撮影する従来のショーの既成概念 にとらわれない演出、構成、選曲、映像編集など、 学生らの創意工夫がみどころです

「たたむ」「つなぐ」「はさむ」「まく」「たらす」など、 ごく基本的な手法でつくられた衣装の数々











「プロモーションビデオ制作」

プロジェクト概要

数名でチームを組み、チームでプロモーションビデオを制作します。何をプロモーション対象とするかはチームで相談して決定します(商品、商店街、企業、イベント等)。

対象を決定したチームは、その対象について徹底的に調べて、プロモーションビデオの構成を検討します。必要であれば、対象の関係者と事前の打ち合わせも行います。構成がまとまったチームから、実際にプロモーションビデオの制作を行っていきます。制作したプロモーションビデオは、その対象の関係者に視聴して頂き、ご意見を頂きます。

プロモーションビデオの制作を通じて、社会との接し方や、映像による表現スキルの向上をめざすのはもちろんですが、制作したプロモーションビデオが、実際に活用されれば、大きな社会貢献となります。得られる達成感も大きなものとなるので、積極的な姿勢で取り組みましょう。



関内キャンパスのプロモーションビデオを制作



シルク博物館で上映するファッションショーの映像を制作



関内キャンパスの撮影の様子



ファッションショーの撮影の様子



ファッションショーの撮影の様子



編集作業の様子



「SF思考ワークショップ通して手法自体を改善する」

プロジェクト概要

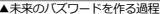
SF思考は国内で注目されている手法 です。この手法はSF作家の思考方法 を参考にしながら未来を描くという ことを目的に構築されつつあるもの です。未だに手法は構築されたとは 言い難い段階にあり、履修者の皆さ んと一緒にワークショップを行いな がら手法改善していきたいと思いま す。最終的なアウトプットは明るい 未来を描いたSF小説となります。全 体のフローは以下の通りになります。



SF思考の概念を 理解する

想定した未来社会の バズワードを作る

负心为去 37190,2 Ently 軽白動曲





▲SF小説を作る過程

SF小説の登場人物や ストーリーを練る

SF小説(プロトタイ プ)を作り発表する



▲ S F小説(プロトタイプ)を発表している様子



プロジェクトを終えての学生の感想

SF思考を、ワークショップを通して楽しく学ぶことができました。 小説を書いたこともないのに、とても新鮮な体験でした。未来を描くのは難しかった。

担当教員:佐々 牧雄(ささ まきお)



デザイン・プロジェクト 13

「ストップモーション・アニメ制作」 コマ撮り映像制作に必要な造形・撮影技術を学ぶ

担当の淡野です

プロジェクト概要

クレイ造形を主体としたコマ撮り映像制作に必要な造形・撮影技術を学ぶプロジェクト実習。特別講師として映画「ノーマン・ザ・スノーマン」シリーズ、最新作「劇場版 ごん - GON, THE LITTLE FOX -」で知られるトップアニメーション・クリエイター八代健志監督を招聘。八代監督率いる映像CMプロダクション太陽企画「TECARAT (テカラ)」スタジオでの集中演習授業を中心として実施するものです。現地では3日間の集中実習として各自の創造する「鳥」を制作し、その鳥を使用してアニメーション制作で使用する実際の機材によりアニメーション制作を行います。その他、八代監督作品の上映会や、CMや映像制作に関するレクチャー、映像業界リクルートについて等の講義を行います。



































「空き家再生プロジェクトの実践(横須賀・三浦地域)」



県産木材でウッドデッキと家具を制作

森林研修 神奈川県丹沢エリアの森林と 製材所を見学し、木が生育する現場から 木材となるまでの一連の過程を合宿しな がら学びました。

ウッドデッキ制作 空き家再生物件「守谷ノ間」(横須賀市鷹取)に広々とした 気持ちのよいウッドデッキが誕生しました。木材は神奈川県産の檜です。

家具制作 空き家となった市営住宅(横須賀市温泉谷戸)が芸術家村として再生されています。その工房の作業台(4台)を県産の檜で制作しました。天板の接ぎ合わせ、組み立て、仕上げなど家具づくりの様々な工程を学びながら、自分たちの手で見事に完成させました。



ウッドデッキ制作(守谷ノ間)























担当教員:兼子 朋也(かねこともや)

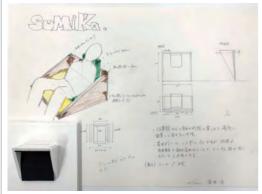


「コミュニティDIY」による「キャンパスリノベーション」

自分たちのキャンパスを、自分たちでデザインする

室の木キャンパスを「コミュニティDIY」の手法でより使いやすく楽しい場所にするのが目的のプロ ジェクト。インテリアのデザインに興味があるけど、デザインには自信がない、DIYをやったことが ないという人でも大丈夫。何年もかけて少しずつ、キャンパスを素敵に変えていきましょう!

①構想・デザイン・模型や図面の作成・モックアップの作成



デザイン案のうちのひとつ



人一案、図面・模型・スケッチを作り発表。 話し合いで3案をグループで制作することに。



モックアップは実寸で段ボールで作りサイズ感 などを確かめます。小学生にも座ってもらい座 り心地を聞きました。



②DIYによる製作作業



追浜の「平野材木店」での作業風景









製作作業は主に、9号館のテラスで行いました。

まず最初に、安全な工具の使い方教室から始まります。それぞれ作りたいものに応じて、使う 道具は様々ですが、電動のこぎり、電動ドリル、インパクトドライバーなど、一通りのDIY工具の 使い方を覚えることができます。

③展示して実際に使ってみよう!



ドーナツ型のテーブルは、数名で使うことが できる大きなもの。杉材の天板も自分達では ぎ合わせて製作しました。



左写真:一人で落ち 着いて座れる椅子。 囲まれた感じが安 心感をもたらします。

右写真:完成したソ ファは、関東学院六 浦小学校の図書館 で実際に使ってい ただいてます。クッ ションは、横浜の椅 子工場に見学に 行ってウレタンを発 注しました。





デザイン・プロジェクト 15

「空き家の再生・活用プロジェクト」の現地調査

*デザイン・プロジェクト 16と連携して実施します。



広島県尾道市

NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト

- 廃墟化した空き家に新しい価値を-

尾道の斜面地には 500 軒の空き家が密集している。 高齢化とともに坂暮らしが難しくなり、空き家になってしまったのである。 そこで 2007 年、 空き家を再生する事業が始まった。 廃墟化した空き家は、 次々とカフェやゲストハウスなどへと生まれ変わった。 古い街並みに新しい価値が付与された空き家が溶け込み、 ぶらぶら散策するのがとにかく楽しい。

一観光客を移住者に一

2009 年、市から委託を受け「尾道市空き家パンク」事業を開始。これまでに約90 軒の空き家と移住希望者とをつなげてきた。人数にして約150名、驚くことにその多くが20代~30代の若者である。空き家再生プロジェクトは尾道に多くの観光客を呼び込んだだけではなく、観光をきっかけに移住者までも増やしたのである。



代表 豊田 雅子さん 「移住しても自分のスキルを生かせる 町づくりがしたい」豊田さんのその言葉 の通り、移住して1日1人限定の海が 見える美容院を営む方、夫婦で小さな パン屋さんを営む方・・・尾道では空き家 にただ住むだけでなく、こうして思い思 いに開撃する移住者も多い。



もともと尾道の魅力に惹かれ移住してきた人が、今や尾道の魅力を創り出す側になっている。

一あなごのねどこ—

長細いから「あなごのねどこ」と名づけられたこのゲストハウスは、すべてボランティアと NPO スタッフの手作りである。しかし、本来、町屋を再生することはとても難しい。一般的に町屋は通りに面する店舗部分とその奥の住居部分からなるのだが、店舗部分が閉まっていて使われていなかったとしても、奥の住居部分にはまだ住民が住んでいるケースが非常に多い。 つまり両方が空き家にならなければ売買・賃貸ができないため、なかなか改修できないのが現状である。

一みはらし亭一

尾道の山手地区は昔から「茶園」という別荘建築の多い地域であり、「みはらし亭」もその一つ。ゲストハウスとなる建物部分はすべて職人さんが改修を手掛けたが、玄関前の小さな庭はボランティア学生25名が可愛いタイルや建物に使われていた古い瓦で装飾する遊び心も。ちなみに、現在「みはらし亭」に住み込みで働いている唯一のスタッフがその当時ボランティアとして参加していた学生の一人だという。









AIR Onomichi

-Artist in residence Onomichi-

国内外のアーティストが尾道に滞在し、空き家を舞台に創作活動を行う。アーティスト自身が住むのも三軒家アパートメントという元空き家、もちろん部屋の修繕は各自で行う。完成したアート作品はツアーで巡り、一定期間公開したのち撤収する。本当は常設展示したいと小野さんは話していたが、作品の維持・管理は簡単なことではない。



代表 小野 環さん (尾道空き家再生プロ 副代表) 今はアートを鑑賞する「空間」より「場所」が 重要視されるようになったと思う。 だから、白い壁で囲まれた美術館ではなく 尾道の山手にある空き家でアートを鑑賞してほしい。 そう思って始めたのが AR プロジェケト。

空き家再生の手法



→ リノベーション → 職人に委託し、本格的な仕上がりに ボランティアを募り、手作り感を

→ 「AIR」プロジェクトで空き家をそのままアート作品に



担当教員:兼子 朋也(かねこともや)





デザイン・プロジェクト 16 夏休みのワークショップ 「サイクルツーリズムのための拠点施設を考える」

*デザイン・プロジェクト 15と連携して実施します。













現地調査と ワークショップを通じて サイクルツーリズムの ための拠点施設の 企画を考えます



担当教員:日髙仁(ひだかじん)



デザイン・プロジェクト14 「広告のデザイン」

プロジェクト概要

「製品の広告や、公共広告の制作を通して、発想力や表現力を高める」というコンセプトです。 広告制作を通して「企画立案」「写真撮影やイラストなどの素材制作」「広告の構成」などの 様々な工程に取り組み、企画力、計画性、制作スキル、実行力などを修得します。 2年生までに修得したデザインの基礎的な知識や技術を踏まえて、写真やイラストのレイアウト、 色の取り扱い方、文字の大きさや行間の調整方法などについて学んでいきます。

授業の説明資料の一部









広告の表現方法は「写真」「イラスト」「文字」「3DCG」等から各自で選択します。 2023年度の授業では、実際に開催されるコンテストの規定やテーマに沿って広告を制作し、 いくつかの作品をコンテストに応募する事が出来ました。

2023年度に制作された作品



虐待防止の公共広告



リユース、リデュース、 リサイクルの 3R活動推進ポスター



読書週間 ポスターイラスト



コミュニケーション・プロジェクト 1

「中長期のインターンシップ」

プロジェクト概要

「180時間以上のインターンシップ」 課題を設定しながら、学外の組織で、実際に社会人の一員として仕事を体験します。

湘南しんきん



株式会社 関学サービス

金沢区通所介護事業者連絡会





































インターン先は変わることが あります。

詳しくはお問い合わせください。





「学生が受けたい授業の企画」と「開講」

プロジェクト概要

学校の授業科目はあらかじめ用意されていて、 学生は選択できても創造できないのが、これまで の大学カリキュラムでした。

このプロジェクトは、学生が自分たちの受けたいと思う授業を、自分たちで企画し、実現させます。

まず、各自が関心を持っているテーマについて 概要を調べて全員の前で発表します。1学期14回 分の授業を企画しなければならないので、単に 「おもしろそう」というだけでは、行き詰まります。か なり深く掘り下げて調べることが必要です。履修者 全員でプレゼンとディスカッションを重ねて、複数 の提案の中から、ひとつの授業を組み立てます。

次に、現在提供されている学部・学科のカリキュ ラム全体を見渡して、同じような授業が開講されて いないことを確認します。また、カリキュラムの中の どの分野の授業なのかについても検討します。

実際に授業として開講するためには、講師の候補者探しと出講交渉が重要になります。まずは、自分たちが受講している科目の中で、開講したい授業に関連する科目を選び、担当の先生に相談します。その先生が引き受けてくださることもあれば、別の先生を紹介してくださることもあります。

お忙しい先生方にご迷惑にならないような時間 を選び、きちんとした企画書や挨拶状を持参して 出講のお願いに上がります。

文書作成能力、メールや電話、対面でのコミュニケーション能力が養成されます。

2018年秋学期に開講した授業の紹介チラシ。学生が作成しました。

秋学期開講のコミュニケーション・プロジェクト3では、春学期に企画した授業を実際に開講します。

2018年度は、実際に3名の先生方が全5回の授業を開講しました。学内広報活動や、授業担当の 先生との連絡、配布資料の準備、授業後のアンケート等も行いました。授業は大変好評でした。

2019年度は講師の選定に時間がかかり、秋学期の開講は実現できず、2020年度は新型コロナの影響で休講となりました。2021年度・2022年度・2023年度はシラバスは完成したものの、講師の交渉には至りませんでしたが、自分達で授業を企画していく中で、数多くの学びがありました。





「英語圏の大学での語学研修プログラム」(A)(B)

プロジェクト概要

英語圏大学での4~5週間(A)、または8~12週間(B)の語学研修プログラムです。期間中は、現地の家庭にホームステイ(LU、UON)、あるいは大学の寮に滞在(SU、CCSU)します。英語の学習はもとより、海外で「生活する」ことによって、異文化世界を自分の目で見て、体で感じる学びを得ることができます。異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションを通じて、相互理解の重要性を認識するとともに、日本を見つめなおす好機になります。

留学先は、下記の4大学です。

- 【LU】 リンカーン大学 (ニュージーランド)
- 【SU】 サンウェイ大学 (マレーシア)
- 【UON】 ニューカッスル大学* (オーストラリア)
- 【CCSU】 セントラル・コネチカット州立大学* (アメリカ)

*コミュニケーション学科のダブル・ディグリー・プログラムの相手校です。 コミュニケーション学科の学生がいずれかの大学で学び、双方の卒業要件 を満たすことで、2つの大学の学位を同時に取得できます。





ニューカッスル大学 (オーストラリア) シドニーから北170キロのニューカッス ルに位置する総合大学。ホームステイを しながら自然あふれるキャンパスで学び、 週末はシドニー散策ですっかりオージー (Aussie) 気分! ホストファミリーとは会話も弾み、第二の家族ができました。絶対にまた「帰り」ます。

Study







リンカーン大学 (ニュージーランド) 1878年設立の歴史ある大学。ラグビー大国の ニュージーランドでは、語学研修はもちろんの こと、英語+ラグビーのプログラムも用意され ています。





マレーシアを代表する私立大学。学生寮はプー ル付きのリゾートホテル並み!先生もクラスメイトも、皆とってもフレンドリー。でも最も宿 題の多い留学先でした。







セントラル・コネチカット州立大学 (アメリカ) 創立1849年の、コネチカット州で最も古い公立大学。 ニューヨークとボストンの中間に位置し、クラスの 遠足では魅力的な二大都市を訪問しました。



「中国・北京大学での中国語研修」

プロジェクト概要



中国の北京大学中文系で、中国語教育の専門の先生による、少人数形式の**中国語力**をつけるプロジェクトです。

⇒2019年度は14名の参加がありま した。

以下は、参加者の感想です。

中国北京放送局への訪問北京放送 局で出会った方のお話が私の中では 一番印象に残っています。こんな熱 心にお仕事している人の話を直接聞 けて刺激になりました。普段入れな い収録している所にも入れて、とて も嬉しかったです。北京大学や放送 局で感じた事を忘れずに感じたこと を活かしていきたいなと思いました。 (高橋かれん)

このプロジェクトで多くのことを 学び、経験することができた。来年 には、オリンピックがあり、実際に 中国語を使う場合があるかもしれな い。その時に簡単なコミュニケー ションが取れるように語学力を身に つけたいと思う。今回得た経験、視 点を今後大学生活やその先に生かし ていきたいと思う。(山本慧)。





北京大学中文系前



中国国際放送局前





「中国文化についての調査・体験(江蘇省·江南地域)」

プロジェクト概要

社会のグローバル化に伴い、文 化の多様性を知ることが求められ、 異文化を理解する力を身につける のも必要とされている。

そのため、本プロジェクト科目では、中国東南部江蘇省の江南地域(揚子江文明の一地域)を対象とし、常州大学日本語学科の学生と合同で中国の歴史や人文、社会、人間行動などの視点から、江南地域の文化について調査し体験的に学ぶことを目的とする。

関連知識の学習と研究テーマ・ 調査計画の策定から始め、2週間 現地調査の実施、結果のまとめ・ 発表などを行うことによって、中 国文化への理解を深めることが到 達目標である。



文筆塔(常州市内・1500年前南北朝時代建造)。常州は、進士1,333名(科挙合格者)、状元(科挙の成績が全国一位の人)9名、のエリートを輩出した土地として有名、塔の頂に華やかな光が現れると、常州辺りで必ず状元が出るとの伝説も生まれたそうです。



常州大学日本語学科の学生と交流・合同学習



春秋淹城遺跡見学・調査(常州市)



中国呉文化博物館・鴻山遺跡(無錫市)



恵山古鎮(無錫市・数百年から千年の歴史 を持った古い町)



山塘街古鎮見学・調査(水郷の街-蘇州市)

担当教員: 施 桂栄(し けいえい)



「就業体験・業界研究(神奈川県情報サービス産業協会)」

プロジェクト概要

一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会(神情協・しんじょうきょう)のご協力により、協会会員の企業で実施されるオープン・カンパニーやキャリア教育などの研修に参加し、情報サービス産業での就業体験をし、業界研究を行います。

情報サービス産業とは、ソフトウェアやシステムの設計や開発などの情報サービス提供を主たる業務とする、ICT産業の1分野です。

業界企業内の職種としては、システムエンジニアとプログラマが約6割ですが、管理・営業部門にも約18%が従事しています。

インターネットやスマートフォンを誰でも使用する 現在、社会における情報システムの重要性はます ます大きくなってきています。

理工系の学生が多く就職するイメージが強い情報サービス産業業界ですが、昔も今も、文科系の学生にも高いニーズがあります。 なぜなら、経営戦略に寄与するシステム開発はもちろん、一般消費者の視点からのサービス開発が求められているからです。

神情協は、神奈川県内のIT企業が集まり、産業の発展や地域社会への貢献を目的として1987年に設立された一般社団法人で、賛助会員を含めた会員数は342社(2023年度)です。

従業員50名以下の規模の企業が全体の54%と、 中小企業が多く、一人一人の学生と真剣に向き 合い、丁寧に対応してくれます。

受入れ企業・期間・研修内容・応募条件等は、 2月頃に決まる予定です。学生と受入れ企業との マッチングは春休み期間(1月~3月)に行います。 情報分野の専門知識不問の企業が多いので、 プログラミング表経験者でも研修に参加でき、就

情報分野の専門知識不問の企業が多いので、 プログラミング未経験者でも研修に参加でき、就 職活動につながる貴重な経験を得ています。

2018年度実績

5社から計19名の受入れ枠を頂きました。 調整の結果、5名の学生が4社に参加しました。

2019年度実績

5社から計18名の受入れ枠を頂きました。 調整の結果、5名の学生が3社に参加しました。

2020年度実績

3社から計7名の受入れ枠を頂きました。 新型コロナの影響で1社は中止になりましたが、1名 の学生がオンサイト、2名の学生がオンライン参加。

2021年度実績

4社に計4名が参加しました。

新型コロナの影響で1名は参加辞退しましたが、2名の学生がオンサイト、1名の学生がオンライン参加。 ※この年度は新型コロナ感染拡大の影響で個別応募となった。

2022年度実績

<u>1社に計1名が参加</u>しました。

※この年度は個別応募

2023年度実績

2社に計2名が参加しました。

※この年度は個別応募

過去の研修内容と期間の実績

- ・IoT技術の新サービス企画(10日間)
- ・野球対戦分析ソフト(その企業が開発販売している 実際の商品)を元にした提案書作成(10日間)
- ·実際のWebサイト画面作成(8日間)
- ・システム開発・事務作業補助(6日間)
- ・IT業界セミナー受講と社内業務改善企画(6日間)
- ・商談(営業活動)同行と展示会出展準備(6日間)
- 新入社員研修への参加とグループワーク(6日間)
- ・システムエンジニア業務や営業のフォロー(5日間)
- ・インフラ構築の基礎(2日間)
- ・プログラミング体験(2日間)
- ・プログラミング体験と就業体験(2日間)
- プログラミング体験(1日)
- •業界職種研究(1日)

【参考サイト】

- 一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会 https://www.kia.or.jp/
- 一般社団法人 情報サービス産業協会 https://www.jisa.or.jp/



コミュニケーション・プロジェクト 10



「日本の伝統文化を体験的に学ぶ」

プロジェクト概要

本プロジェクトでは、日本の伝統文化を体験的に学ぶことを通じて、文化のあり方や意味について 考えます。具体的には、京都市において、

- ・祇園祭の見学
- ・茶道の体験
- ・華道の体験
- ・日本茶ブレンド体験
- ・日本庭園見学

などの活動を行います。

これらの活動を通じて、真の伝統文化とは、変わらずに続いているものではなく、むしろ、変化し時代に適合することによって存続してきたこと、文化は必ずしも連続的に続いているわけではなく、しばしば断続的であること、日本の伝統文化といっても、日本固有のもののみから成り立っているわけではなく、一定の国際性を帯びていること、などを各自の体験を通じて実感してもらいます。











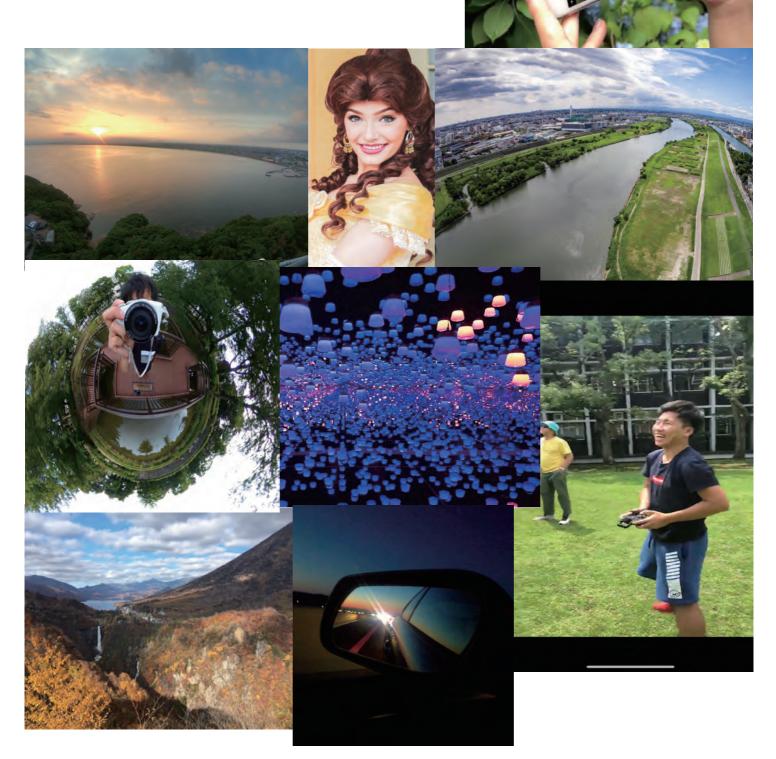


コミュニケーション・プロジェクト 11

「Learning to Master Popular Visual Technology」

プロジェクト概要

Self-learn how to use current digital tools and technology (smartphones, drones, GoPro's, 360° cameras, software) beyond a beginner level.





「インターネットを活用した 情報発信・広報の計画立案・実践」

プロジェクト概要

このプロジェクトでは、インターネットを活用した情報発信を実践しました。メディアの特徴などについて学んだ上で、実際に自分たちで書いた文章を互いにレビューしてから、Zoomの画面共有機能を用いて教員が添削し、「伝える」ための文章を練習しました。その後、目的とターゲットを考慮して発信メディアを決めて計画を立てました。2023年度は、個人プロジェクト3件、グループプロジェクト3件で活動しました。

個人プロジェクトは、お弁当に関する発信や舞浜に関する発信をしました。グループのプロジェクトでは、関内キャンパスの各所やキャンパス周辺の飲食店に取材をして、コンテンツを作り、発信しました。関内キャンパスを紹介する「ワリー」というオリジナルキャラクターを使った動画では、プロジェクト全ての活動を紹介しました。また、ランチマップとカフェマップは取材内容をGoogle Mapsにまとめて掲載しました。オープンキャンパスでは、オリジナルのクリアフォルダーとマップを配布し、プロジェクトを紹介しました。

個人プロジェクト

★お弁当プロジェクト (甲見・伊澤)

健康について考え たんぱく質・脂質・ 炭水化物を 考慮した献立作り





気温に合わせた 献立の作成 作り置きのおかずや 栄養バランスを 考えたメニュー





★舞浜駅周辺・夢の国の観て歩く楽しさ (亀山)



ちょっと 自慢したくなる ディズニー豆知識

担当教員:折田 明子(おりた あきこ)

グループプロジェクト









「自然の心理効果についての調査プロジェクト」

プロジェクト概要

環境心理学の観点から自然の心理効果について調査するプロジェクトです。まず、環境心理学の視点や研究方法 についてゼミ形式で学びます。次に、グループごとにテーマ設定を行い、 Chigasaki Organic Farm (茅ケ崎市内の 有機農園)にてフィールドワークを2回行います。フィールドワークでは、農園主へのインタビュー調査や農業体 験を行いました。最後に、フィールドワークによって得られた成果を発表します。

※2回のフィールドワークは、デザイン・プロジェクト12(二宮)と共同実施でした。

【プロジェクトの流れ】

- 1. 環境心理学の視点や心理学研究法について学ぶ。
- 2. テーマやリサーチクエスチョンを設定する。
- 3. フィールドワークを行う。
- 4. 調査で得られた成果をまとめる。
- 5. 研究成果を発表し、振り返りを行う。

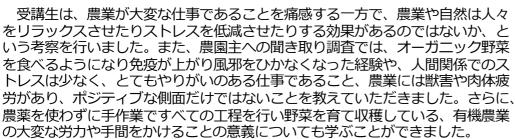
Chigasaki Organic Farmでのフィールドワークの様子

























「問題発見から課題解決~知の実践~」

プロジェクト概要

このプロジェクトでは実務界における社会人として活動していくために、身につけないといけない様々なスキルがある。問題発見力、課題解決力、そして、それらを分かりやすく伝えるプレゼンテーション力、また、その内容を根拠をもって説明するために必要な分析力、これらのスキルを座学で学び、実際の現場でヒヤリングし、そこから問題を抽出する。そして、その問題から課題を見出し、解決策を提示するという一連のビジネス作業を実践する。これらの活動を通して、自分に得意なことはどのようなことか、一方で苦手とすることはどのようなことなのかを認識し、社会人として活動していくための今後の目標を見出す。

【事前学習】

- ①論理的思考について
- ②水平思考について
- ③組織行動について
- ④プレゼンテーションの方法
- ⑤GTA(グラウンデット・セオリー・アプローチ)
- ⑥インタビューの方法

2. 水平思考と垂直思考の違い 思考法 水平思考 垂直思考 結論 結論は複数存在する 結論は基本的に1つだけ 自的 本質を捉えつつ、思考の幅 論理的に筋道を立てた上で、結論を導く 既成概念の 有無 既成概念にこだわらない 既成概念に基づいている

<まとめ> インタビューする際は・・・ ◎「問いかける技術」が必要

POINT→ "謙虚に問いかける"

「謙虚に問いかける」とは・・・

◎その人のことを理解したいという純粋な気 持ちをもって関係を築いていくための流儀。 ◎相手の警戒心を解くことができる手法。

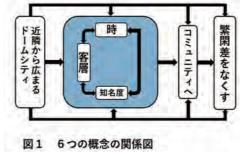
【東京ドーム訪問~2019.6.17~】

・東京ドームの方から説明を受け、録音データ から逐語録を作成



・逐語録から概念を抽出し、関係図を作成 【現状把握】





版本さん:あ、もちろん、雅学旅行で利用されたようとか、こういう展にいるなが関われてありとか、こういう別にいるなが関わているのですだと、中を地方の方がであるいようなことはやってるんですがと、
をみまりようなことはやってるんですがと、
をかまりました。 「最近になった」という。
を本さん:やっぱと日は野球とかドームでコンチードがなくでも、説明を目的でファミ
リーの方とかカブナルのけとかりませとかた。
くさんのおが説明地に選びたまでくれるので、
それだけでも繋やかなんですけど

・関係図から見えてきた課題をもとに、解決案を作成

【プレゼンテーション~2019.7.22~】

~3チームに分かれて新規事業案を作成し、東京ドームの方々に向けたプレゼンテーションを行いました~

=Aチーム=

- ≪年配層と若者向けの広告方法と新企画の提案≫
- ◎若者向け➡Instagramのストーリー機能や一般的な投稿
- ◎年配層向け⇒はがきDMやフリーペーパーなどの紙媒体

【施設提供+イベント】 年配層Ver.



2. 解決案①→ music café

目的:ドームらしさを追及し広域顕客を獲得する

様々なアーティストとのコラボメニュー 平日限定メニューで土日との繁開差を埋める アミューズメントパークのチケット



utuberを起用した際の効果

匿名投稿アプリ「Rumor」とのタイアップ



若者Ver.

=Bチーム=

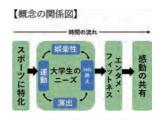
- ≪広域顧客の波と宣伝方法の解決案≫
- ◎広域顧客の波→music café
- ◎宣伝方法→YouTuberタイアップ企画

=Cチーム=

- ≪ライブ演出×フィットネス≫
- ◎新規事業の提案→"エンタメ・フィットネス"
- ◎広告方法→インフルエンサーへの依頼

担当教員:道幸俊也(みちゆきとしや)

【まとめ】 想い:楽しく運動できる場所の提供 「エンタメ・フィットネス」 感動の共有



3. 解決案②→YouTuberタイアップ企画







「JICAにおける国際協力を学び、日本におけるチャイナタウンから SDG s を考えよう」

プロジェクト概要

PBL型プロジェクト科目では、自ら課題を設定し、現地での調査を経て 分析を行い最後に報告を行います。これら"能動的学び"によって価値観の 多様化する現代社会において必要な他者と力を合わせる資質が生まれます。

2023年度は、中国と日本におけるSDGsの取り組みを学びながら、 "和(日本)・華(中国)・蘭(オランダ)"文化に代表される多文化共生 の街・長崎において、それぞれのチームの異なった視点から歴史・文化と SDGsとの関連性についての調査を行い、SDGsの理念を取り込んだ地方創 生の実現方法について提案するというフィールドワークを行いました。

また、国際理解を深めるための学習としては、"JICA横浜"にて現地研修 を受け、本学にてJICA派遣の専門家の講義を受け、ディスカッションを行 い、その成果は高校生との交流会やオープンキャンパスで発表しました。

長崎でのフィールドワーク: 2回の班に分け、日中文化交流の歴史やSDGs との関連について、それぞれ3日間の日程での実地研修。

1日目 日中の友好の歴史を学ぶ:長崎新地中華街・唐人屋敷・

孔子廟・眼鏡橋・崇福寺・興福寺など

2日目 "和・華・蘭"文化を学ぶ:グラバー園・出島など

3日目 平和への祈り:原爆資料館・平和公園など







●可持续发展回标

JICA横浜での研修会と 本学での講演会







高校生との交流とプレゼンテーション



出島



グラバー園



孔子廟







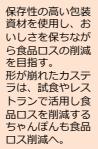




運賃 大人140円 子供70円 障害者・介護者は半額になる。 日中は5~9分に1本の間隔

→長崎市民の大事な足となって いる。







また、ここから世界三大夜景の一つである 長崎市内を露天風呂から一望できる



土日祝日も利用でき、市 民に人気





チーム別学生によるプレゼンテーション内容



プロジェクト16 修了式



長崎とSDGsに関連する イラストコンテストで見事 グランプリを獲得したイラスト

担当教員:山田 留里子(やまだ るりこ)



報告書









25



「記憶の場をめぐる諸問題について考える」

プロジェクト概要

本プロジェクトは、「さきの大戦」をめぐる記憶の諸問題を実証的に捉えなおすことを目的とする。

2023年度は、「ナガサキを最後の被爆地に」 をスローガンに核兵器廃絶を世界に訴えかける 被爆地長崎におけるフィールドワークを行った。

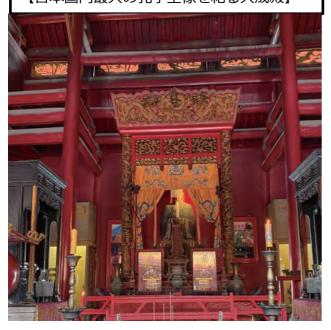
1日目@眼鏡橋

【東京の「日本橋」、山口の「錦帯橋」と 並ぶ日本三名橋のうちの一つ 】



2日目@孔子廟

【日本国内最大の孔子坐像を祀る大成殿】



2023年度

2023年5月11日から13日にかけて2泊3日で、偶然、フィールドワークの場所が一致した施先生と山田先生のプロジェクト科目と合同で長崎研修を実施した。

2日目@グラバー園

【2015年に「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として世界文化遺産登録】



3日目@長崎原爆資料館

【長崎に原子爆弾が投下されるに至った経緯や核 兵器開発の歴史等を紹介しながら、「核兵器のな い世界」の実現に向けて平和を発信】



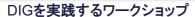
担当教員:奥田博子(おくだ ひろこ)

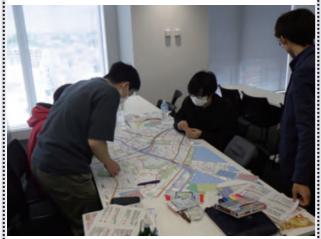


「応用心理学による災害リスクアセスメントの体験とソリューションの提案」

プロジェクト概要

コミュニケーション・プロジェクト18では、応用心理学の視点から、現実社会の問題にアプローチし、ソリューションを 提案することを目的としています。今回のプロジェクトでは、横浜の都市における災害リスクを対象にしました。具体的 には、担当エリアごとの3グループに分かれ、それぞれの地域について、災害心理について理解を深め(講習)、 DIG(Disaster Imagination Game)とよばれる図上型災害シミュレーション(専門家によるワークショップ)と、フィールド 調査に基づくアセスメント(心理学に基づく現場調査)を行いました。その結果に基づき、安心・安全なまちづくりのソ リューションを提案し、プレゼンテーションとして成果を発表しました。「森を見て木を見ず」ではなく、森(都市の構造)を 見て、木(人目線)を見て、さまざまな問題を検討する心理学の視点をプロジェクトではトレーニングしています。現実の 都市の問題に心理学でアプローチするというコミュニケーション学科ならではの実践的なプロジェクトです。





DIGでは関内エリアの住宅地図を用いて、図上で都市の構造を見て、災害への弱み、強みをシミュレーションしています。"森の視点"(都市構造)という俯瞰で問題を検討しています。

フィールド調査(イセザキモール周辺)



フィールド調査では、DIGのシミュレーションを 踏まえて、実際に街の現場に出向き、"木の視 点"である人の目線に立って問題を評価するこ とで、新たな気づきを経験します。



キャンパス案内

コミュニケーション学科は、2023年4月から横浜・関内キャンパスに 移転しました。

共生デザイン学科は、金沢八景キャンパスです。

コミュニケーション学科:横浜・関内キャンパス



人間共生学部ホームページ https://kyousei.kanto-gakuin.ac.jp/



- コミュニケーション学科の横浜・関内キャンパスの最寄り駅は、JR京浜東北線・根岸線の「関内駅」で、 横浜駅から約5分、東京駅から約40分です。
- JR関内駅南口から徒歩約2分です。
- 横浜市営地下鉄ブルーラインの関内駅や伊勢崎長者町駅、みなとみらい線の日本大通り駅も利用可能です。

コミュニケーション学科に関する問い合わせ先:

関東学院大学 学部庶務課 (経営学部、法学部、人間共生学部)

TEL: 045-306-9333

住所: 〒231-0016 横浜市中区真砂町2-12 関内駅前第一ビル2階

メール: kannaishomu@kanto-gakuin.ac.jp

共生デザイン学科:金沢八景キャンパス



- 共生デザイン学科の金沢八景キャンパスの最寄り駅は、京浜急行の金沢八景駅で、快特で横浜から約20分、 品川から約40分です。
- 金沢八景駅からは徒歩約15分。京急バス「八8系統 関東学院循環」利用では約5分(関東学院東下車)です。
- 八景島を通る横浜新都市交通金沢シーサイドラインの野島公園駅も利用可能です。

共生デザイン学科に関する問い合わせ先:

関東学院大学 学部庶務課(人間共生、教育、栄養、看護学部)

TEL: 045-786-7760

住所: 〒236-8503 横浜市金沢区六浦東1-50-1

メール: ninshomu@kanto-gakuin.ac.jp